



平成 26 年 7 月 1 日 発行

第 1 1 号

京田辺市観光ボランティア

ガイド協会 広報部編集

☎ 0774-68-2810

平成 26 年度事業計画について

平成 26 年度は、12 名の新人を含む総勢 35 人の会員でスタートする事になり、事業も大幅に拡大する事になりました。本会の事業部門には次の三部会があり、各部会の事業計画は次の通りです。

①自主企画部会:一般ガイドの受託、及び京田辺市が行う企画事業の応援ガイドは勿論のこと、定例となった「JR ふれあいハイク(春夏秋冬)」、「京田辺の玉露ウォーク(5 月、11 月)」を実施します。これ以外に本年は新規のガイド活動にも力を入れております。「京田辺の古木・保存木を巡るウォーク(6 月、27 年 3 月)」、「京田辺の古代史の謎を探るウォーク(7 月、10 月)」、「桜の花と五大力尊を巡るウォーク(27 年 4 月)」等を実施する予定です。また、他市町村のガイド協会との連携や同志社大学との連携、各自治会、小・中学校との連携による「ふるさと巡り」等の拡充も図ります。

②広報部会:広報誌「つつきの」を年 2 回発刊します。また、チラシ、ポスターの作成及び各報道機関への働きかけなどのメディアを利用した宣伝活動をさらに強化します。

③研修部会:座学は毎月定例会の前に実施します。また、昨年好評だった外部講師による市民参加型講習会「仏像の話パートⅢ」及び「陰・陽から見た日本文化について」を実施する予定です。更に新会員を対象とした勉強会、現地講習会を毎月実施します。

京田辺市観光ボランティアガイド協会では、新しい知識の習得と新しいガイドコースの開発に力を注いでいます。そして市民の方々に京田辺市の良さをアピールしたいと考えています。(代表 藤野隆司)

ボランティアガイド日誌

4月7日 満開の桜ガイド

近鉄新田辺駅9時に集合、宇治市「ええとこめつけ」の会様66名(9割女性)をガイドしました。



みつまんぼ

まず、東口に出て、馬坂川の桜並木を歩きました。6日の花見ウォークの翌日で桜は満開を保ち、時折見せる花吹雪を鑑賞してもらいました。

天井川解消工事中の崖を遠望しながら天井川を説明し、田んぼの畦に咲く野花に京田辺の春を感じてもらい、みつまんぼの説明をしました。その

後、車道に出て、高架橋を渡って、市役所の公園で休憩しましたが、三春の滝桜はすでに散っており残念でした。

酒屋神社を案内した後、観音寺を訪れ満開の桜と菜の花に囲まれながらの昼食。参加者から「わぁ美しい！」と感嘆の声があがりました。

注文された弁当は「竹の子ご飯」で全員に好評でした。食後は「茶香服」ということで、ペットボトルのお茶当てゲームで盛り上がり、こんな楽しみ方もあるのだと教えられました。

終わりに十一面観音の説明をして、JR三山木駅に向かい解散しました。(岸田)

4月15日 一休寺・酒屋神社・観音寺他をガイド

3月末に精華町ゆうゆう倶楽部様12名のガイド

依頼がありました。その中に足の不自由な方がおられることがわかり、補助のため2名でガイドする体制をとりました。ガイド



一休寺北庭

当日、予定の時間にJR京田辺駅に到着され、棚倉孫神社・甘南備寺を經由して一休寺に向かって出発しました。一休寺見学後、酒屋神社、観音寺、筒城宮跡を回り 13 時 03 分JR同志社前駅より帰途につかれました。観音寺ではご住職自らご案内戴けたことに大変喜んでおられました。

今回のガイドの教訓として、「事前連絡」の大切さを強く感じました。

(新井)

5月20日「ふれあいまなびやコース」ガイド

奈良市のウォーキング同好会の60～80代、男性15名、女性4名の方々を近鉄新田辺駅10時にお迎えしました。コースの段取りはお任せでしたが、天気予報で夕方から下り坂とのことで2時半までには三山木駅到着を希望。足の痛い方、今回初参加の方がおられたりで、「三つマンボ」を見学し、酒屋神社には行かず同志社大学内の「筒城宮伝承地」の碑を見学して新緑のキャンパスを散策し、西門から観音寺へ向かいました。観音寺では15名の方がお詣りされご住職のお話を聞かれました。



観音寺

お弁当休憩のあと「ふれあいの駅」へ行きました。スタッフの巧みなおもてなしにほとんどの方が新茶や花を買われ賑やかに出発しました。「日本最初外国蚕飼育旧跡」の碑。近衛基通御廟を散策路から眺め三山木駅に到着しました。

参加者の中に木や草花に詳しい方がおられ、終始なごやかな雰囲気でお話を終えることができました。

参加者の中に木や草花に詳しい方がおられ、終始なごやかな雰囲気でお話を終えることができました。

甘南備山展望コースを紹介して再びお会いできることを期待してお見送りしました。(高橋)

5月24日 宇治茶歴史街道ウォーク

「玉露の産地京田辺でお茶の香りを楽しむ」

農林大臣賞を幾度も受賞されている出島藤司さんの日本一の玉露園がある飯岡に59名を案内しました。茶摘さんの働かされている姿に参加者の皆さんは、日常目にしない光景だけに感嘆の声をあげられていました。

中部住民センターでは、日本茶インストラクターの本格的な指導による「玉露の美味しい淹れ方」を体験学習していただきました。出島藤司さんの玉露を使っただけに驚きの4煎まで美味しく賞味できました。更に残った茶殻にポン酢をかければ珍味として食することができ、またまた驚きの連続です。こんなすばらしい内容の、充実した体験

学習費用も「宇治茶の郷づくり協議会」からでているとあっては参加者の皆さんは絶句！



大徳寺

帰路は仲井芳東園での楽しい買い物に続いて、大徳寺の鎌倉時代・大日如来を拝観していただき、築200年を超える大和棟茅葺きの本堂の詳しい説明をさせていただきました。

(小川)

今後のJRふれあいハイクのご案内

① 平成26年9月27日(土)

『初秋の甘奈備山から平安京を望む』

JR大住駅 9:20⇒虚空蔵堂と滝⇒甘奈備山頂⇒(一休寺)⇒JR京田辺駅 15:00頃
歩程 約10Km 参加費 300円 雨天中止

② 平成26年10月5日(日)

『京田辺茶まつりと健康長寿パワースポット巡り』

JR京田辺駅 9:50⇒茶まつり会場⇒薪神社⇒一休寺⇒棚倉孫神社⇒JR京田辺駅 14:00頃
歩程 約4Km 参加費 300円 雨天決行

*いずれも、お弁当(600円)をご希望の方は予約時にお申し込みください。

*お問い合わせお申込みは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810 Fax 0774-68-2817

Email: info@kyotana.be

『シリーズ：古事記編纂 1300 年記念』
京田辺市の古事記を歩く第三回目
「雲上の牡丹と古事記の神々を訪ねて」

平成 25 年 4 月、「京田辺市の古事記を歩く」シリーズ三回目のハイキングを実施しました。

JR 三山木駅を出発点とし古事記に登場する神々と神話が残る神社仏閣（高船の極楽寺、石船神社、笠上神社、朱智神社）を巡り、その後、無二荘の牡丹を満喫し JR 同志社前駅までの約 10Km のコースです。

以下参拝した神社仏閣とこれに登場する記紀の神々を紹介します。



打田の棚田風景

①極楽寺:天正年間、乗阿大空上人によって創建されたと伝えられ、本尊は阿弥陀如来坐像です。

②石船神社:当神社には物部氏の始祖神である饒速日命にぎはやひのみことの降臨神話を伝えています。伝承によると饒速日命が天磐船あまのいわたぶねに乗り、この地の權ヶ峰かじがみねに降臨し、そのあと河内の哮峰たけるがみねに天降り、大和の国鳥見白庭山に遷ったと言われています。極楽寺の近くに埋もれた船の舳先に似た巨石があります。これがその時の天磐船と言われているとされています。一般

的に知られている天孫降臨は九州高千穂に降臨した邇邇芸命ににぎのみことが有名ですが、饒速日命はこの邇邇芸命と兄弟で、邇邇芸命より先に降臨したといわれています。

神社の本殿は流造、板葺一間社です。祭神は大国主命と事代主命です。

大国主命は出雲国を平定し、その子・事代主命は天照大御神の「国譲り」に登場する神様です。また、両神は「大黒様」、「えびす様」とも言われます。

③笠上神社:昭和初期、一篤志家によって建立。祭神は豊受比売命とようけひめのみことです。瘡神社ともいわれ、瘡を患う者の平癒祈願の信仰があります。境内は眺望よく南山城奈良方面まで一望できます。

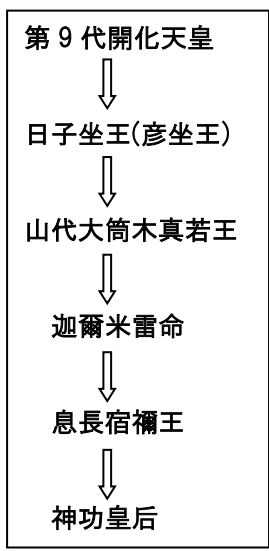
豊受比売命は、伊耶那美神が病になった時、尿から生まれた和久産巢日神（生命の神）の子神で食べ物を司る神です。伊勢外宮の主祭神です。

④朱智神社:現在の本殿は、慶長 17(1612)年に再建され、建物は一間社流造檜皮葺で木鼻や墓股に桃山様式の華麗な彫刻が見られます。祭神は神功皇后の祖父である迦爾米雷命かにめいかづちのみことを主神とし、配神は建速須佐之男尊たてはやすきののみこと、天照国照彦火明命あまてるくにてるひこほあかりのみことです。

迦爾米雷命:第 9 代開化天皇の孫・山代大筒木真若王の子で息長氏の祖氏とされています。父子共に「綴喜郡」として最も重要な人神様です。

天照国照彦火明命:權ヶ峰に降臨した饒速日命と同一とされています。

その他、朱智神社には記紀に登場する主な神々が摂社に祭られております。



(会員A)



京田辺市の観光には
観光ボランティアガイド
をご利用ください。
お問合せは観光案内所まで